

本草圖譜

濕草部

十三

本草圖譜卷之十三目錄

濕草類 四

蠡實 れいどつ

をまこん

二

一種

かちん

惡實 あくじつ

むまふぎ

三

一種

魯西亜種 ろしあしゆ

四

莖耳 いど

をなもみ

五

天名精 てんめいせい

いのまりぐさ

六

一種

あうぶんさう

一種

やまぶらう

一種

がんびさう

一種

稀蓆 きせき

めなせみ

八

箬 あやく

ちのちのこさ

一種 舶来箬葉

一種 くまざき 九

蘆ろ 十 一種 うづのき 十二

荻てき 十三 一種 ひめき 十三

甘蕉かんせう 十四 牛乳蕉 十五 水蕉すゐせう 十六 せせき

紅蕉こうせう 十七 びいんせう 蕞荷きやうが めうが

一種 やぶめうの 麻黄まわう

一種 かろうの 木賊もくぞく 十三

一種 きんせう 廿 問荆ぶんけい すき

石龍菊 せきりゅうきく

いぬる

廿

龍常草 りゅうじょうそう

いそる

燈心草 とうしんそう

る

廿

本草圖譜卷之十三

東都

岩崎常正著

濕草類 四

三十四種

本草綱目
卷之十三
蟲實

それん 馬蘭マランの
音轉

自生なり人家なまぐ植うるものなり紫羅蘭シランメアヤの一種なり
春月宿根より生じ葉へあやめふ似て厚く硬くして皆ぬぢれり
故ふねぢあやめともいふ葉長サ二尺許春の末花あり三瓣ハ大ふりて
三瓣へ狭く淡紫色なりて中ふ斑マダラあり後莢を結ぶ形蟬セイ蟠イモムシサウふ似
り中ふ扁き黄色の實あり又近頃舶来種なり形相似て葉長
く花色薄し



一種

かまやまやうぶ



琉球釜山より来るといふ葉祢ぢいれやめより長く
三尺をうり花深紫色ふりて美なり

惡實

むちふぐき
本草
和名

葉ハ唐大黃ノ似テ長大根ハ薊ノ根ノ如ク一ツ肥大ナリ花紅色薊ノ花ノ似ナリ實ハ楓蓂ノ
似テ中子胡麻ノ似テ両頭尖レリ藥用ノ一ノ根ハ食料トス諸國ノ名産多ク東國ニハ上野ノ
行田下総ノ大浦武州岩築結城忍又浦賀牛房ハ甚ダ長く味ハ美ナリ又武州碑文谷俵牛房
ハ肥大シテ長く柔ク一ツ熟一易一ツ云

一 種

ねろーやごんごう

此種近年魯西亜ヨリ來ルモノ葉ハ牛房ノ似テ花^{キレミ}ハ甚ダ多く薊葉ノ似テ刺ナク根も牛
房ノ異ナルモノ一ツ淡黒色味ハ淡甘香氣アリ花實ハ牛房ノ同ト

魯西亜
實

むまろぐま



魯西亞種



紫耳い

ちよみ





荒野不多し実より生ず葉ハ牛房小似て圓く又
白桐キ葉小似て小く厚し莖高サ四五尺枝を分ち
夏月小白花を開き實を結ぶ其形ヤシ占斯ムシの如く毛
刺あり人衣獸毛不粘す一説葉耳の釋名小卷耳を引て二物とすれども詩經の註チ形如鼠耳チ叢
生如盤と云にのみぞみちのぐさなり山野不多し冬より生し春不至て盛なり葉ハ鼠の耳小似
りこル鷄腸草なり

天名精

いのまりぐさ

山野小多葉の形烟
草小似て小なりと云ふ
やぶさそことともいふ苗
初地小布後高サ二尺許
枝の葉間小房を連
生し黄花あり実甚ッ
碎小なり是小觸れば
人衣小粘す故小鶴虱
の名あり



老うぶんさう 州尾

苗葉雞見腸ヨソナふ似て茎高サ二尺許多く
枝を分て葉間小碎小白花あり房の
形天名精と今く稀黄の附録の羊
尿柴ふ似れども未々決せん



一種 やまぢやう

苗初、地ふ布て地黄葉の
如く又天名精ふ似て軟く
毛茸あり花がんとびき

うふわなぐ

